

(別記様式第3号)

普及活動検討会実施報告書

大崎農業改良普及センター

実施月日：令和3年9月9日

実施場所：大崎合同庁舎大会議室

1 検討内容

No	検討項目
1	プロジェクト課題の個別検討 課題No.2「水田フル活用」に向けた土地利用型経営体によるえだまめの産地育成
2	令和3年度プロジェクト課題について 課題No.1 大崎園芸を牽引するなすの技術革新による生産性向上 課題No.3 直売所と連携した中山間地域でのぶどう産地育成 課題No.4 下真山地域における農地整備事業を契機とした地域農業の発展

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	1
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
プロジェクト課題の個別検討について	3.7	<ul style="list-style-type: none">園芸産出額の拡大を目指す中、大豆産地でのえだまめ産地化は設定として適しており、拡大すべきと思う。機械収穫、洗浄、選別に手間がかかるので、収益性やコストの目標を示すことが大切。露地野菜ではネギなど労力はかかるが収益の良いものもあり、えだまめが他の野菜と比べてどんな利点があるかを示すべき。古川特産の加工品までができ、販売力が上がることを期待する。	<ul style="list-style-type: none">大豆産地の利点を活かし、関係機関と連携しながら安定生産・省力化に向けた技術の普及を進め産地化を図ってまいります。経営コスト面は2年間の活動の中でより詳しく調査検討し、新規の作付誘導に活用出来るよう経営指標をお示ししていきます。他の園芸品目との比較検討を行いながらえだまめのメリットを明確にしていきます。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント，評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
令和3年度プロジェクト課題について	4.3	<p>No.1関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なすは県内でも有数の産地であり，リードして進めて欲しい。 ・勘と経験のデータ化は大事な課題。測定機器の導入費用等をマニュアルに示すことも必要。 ・スマート農業はこれから期待される技術と思う。 ・確実に課題が解決されている。 <p>No.3関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶどうは立派に作っている方が多いので，是非もっと販売につながるよう誘導して欲しい。 ・ぶどうは需要が高まっており，良い課題。市やJAとさらに連携して取り組んで欲しい。 ・シャインマスカットは人気のある品種なので今後が楽しみ。 <p>No.4関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当市としても連携して対応頂いていることに感謝している。次世代資金活用者等の若い農家が多い地区である。引き続きモデルとなるように取り組んで頂きたい。 ・若手生産者の動きもあるので今後に期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動成果をJA部会員等と情報共有するとともに，新たな技術がスムーズに導入されるようにマニュアル作成にも取り組んでいきます。 ・販売量が増加するように生産者への出荷誘導を図っていきます。 ・引き続き関係機関と連携しながら生産者の栽培技術の習得を進め，収益の確保出来る園芸品目として産地育成に取り組んでいきます。 ・若手生産者を中心とし，将来にわたり収益性を確保出来る担い手組織の立ち上げ等を引き続き支援していきます。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・えだまめの収穫等の動画は大変興味深く拝見させて頂いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策として，現地検討の代替として動画を作成しました。引き続き感染症対策をした上で，普及活動を進めていきます。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する